

## 「ヘルパーが不足している」

大野 里子

今回「今、生活の中で問題と感じていること」というテーマをいただきました。少々ネガティブな内容になりそうです。ご容赦ください。

広島市で在宅生活を始めて6年目になります。実家の隣で、一人暮らしに近い形で生活しています。昨年あたりからヘルパーが度々事業所を辞められるようになり、これまで4社のヘルパー事業所と契約していたのが、4社の事業所だけではヘルパーがおらず補えなくなり、新しい事業所と契約せざるをえなくなり現在7社と契約しています。別の事業所もすぐに見つかるわけではなく、相談支援専門員の方に探してもらいようやく見つかるという現状です。もちろん私の所だけでなく広島市全体でヘルパーが不足している状態のようでしょうか。ヘルパーの退職される理由は様々で入所の施設に転職される方や仕事がハードになり耐えられなくなって辞められる方、親族の介護、妊娠出産のためとさまざまです。今後、人口減少から労働人口の減少、高齢者人口が増え介護サービスが必要な方が増えていくのにこの現状を考えると、とてもじゃないけど同じ暮らしができるとは思えなくなってきました。社会保障費の年金制度の方が先に破綻すると思っていたので、このようなヘルパー不足は予想外でした。

これまでヘルパーがいたからこそ生活できたわけで、今や一人でも辞めてしまうと生活できない危機感があります。1つの事業所に登録しているヘルパーが以前と比べると半分になっていて、本当にどうしてこんなことになっているのだろうと不思議です。介護者付き高齢者住宅や施設が増えていることも考えられるのですが、はっきりしたことがよくわからないままです。景気が良くなっているからでしょうか。冗談で、あまりにヘルパー不足なので人件費の安い海外に移住するしかないとか北朝鮮が崩壊して北朝鮮の難民が日本に来てヘルパーとして働くのではないかと話します。広島市で暮らすことが難しくなれば

他の地域で暮らすことも考えられますが、カーブがなかなか観られなくなるので腰は重たいと思います。ヘルパーがいなければカーブも観に行くことが難しくなりそうですが…

札幌に頸損の友人が住んでいるのですが、その友人がPAと言う制度を利用していることを知りました。札幌市が独自に行っているパーソナルアシスタントと言う名前の事業で、重度訪問介護の支給を受けている方が対象でヘルパー資格の有無にかかわらず介助者になってもらうことができます。介助費用を直接利用者本人に支給があったり直接介助者と契約をしたりと代理受領の制度が始まる前の制度とよく似ている気がします。その頃の時代を知っている当事者に聞いたことではないのですが、アルバイトの求人情報誌に利用者の個人名のような会社名で求人が出ていて、資格不要でそこから訪問介護の業界に入り好きになったと言うヘルパーがいらっしゃいました。きっと今の制度では非常識なこともNGなことも何でもされてきて、面白かったり楽しかったりしたのだと思います。PA制度にメリットデメリット両方あると思います。また、不正に利用されないような仕組みも必要だと思います。それでも、いつか広島市でもPA制度を導入してもらいたいです。自分のしたい生活ができるようにいろんな選択肢の中から状況に応じて、上手に利用できるようになるといいのになと思います。

ヘルパー不足のこと以外は本当に良い生活をさせてもらっていると思います。個人によって価値観はそれぞれだと思いますが、受傷し入院している頃は、これからずっとベッドの上での生活で入浴の時以外は着替えもできず、朝、顔を洗ってもらうことなんてないと思っていました。もちろん外出なんて年に数回しかできないと思っていました。今、毎朝顔を洗って流してもらえることが本当に幸せです。鏡で自分の顔を見ることが出来るのも幸せです。少しの時間でも暑くても寒くても外出できることが本当に嬉しいです。今のこ

の時代に生まれていて良かったなと日々感じています。自分で考え情報を探して工夫しているところもありますが、色々便利なものや親切な方や配慮もしてもらい、ありがたいです。ちょっとしたことでストレスを感じることもあります、相手の発言への受け取り方やまたそれに対する自分の言い方一つで関係が変わるので、日々勉強だなと感じています。

先日、ヘルパーとの関係でいろいろ考えることがありました。私は数年前から髪の毛をヘアドネーションで寄付しようと思っていて伸ばしています。ヘアドネーションとは抗がん剤の副作用などで髪を失った方に人工毛のウィッグを提供する活動です。人工毛のウィッグは高額で治療の大きな負担になっていたり、小児がんの場合は子供用のウィッグもなかなかなく大人用ではサイズが合わなかったりと言った現状があります。テレビや新聞でヘアドネーションのことを知り、その頃、友人が抗がん剤治療で髪の毛を失い、とても髪の毛を大事にしていた友人なので友人のような方のためになればと思い伸ばし始めました。そんな伸ばしている理由も知っているヘルパーから「髪切りんさい」と言われたことです。しかも「切るなら夏が良いよ」と言われました。「どうして切った方が良いと思われるんですか」と聞くと「もう長いけん」と言われました。私のためを思ってきつともう十分な長さだから切るなら夏がいいよと言いたかったのだと思います。けれどヘアドネーションで望まれている長さがあり、やはり長いウィッグを望まれる方が多いので、50-60cmの長さの髪の毛が特に不足していて、できるだけ長い髪を寄付したいと思っている私には大きなお世話でカチンとと思ってしまいました。切るタイミングは自分で決めたいのです。ケアをしてくださるのはヘルパーで、ヘルパーには感謝してもしきれないほどですが、人間が未熟なためまだまだ受け入れられない時が多々あります。

他にも貴重なご意見をくださる方や、言わなくていいことを言われる方がたまにいますが、ついカチンときてしまいます。言葉遣いや言い方で受け取り方や受け取られ方がずいぶん変わるのであると思います。ヘルパーとの付き合い方にも工夫が大事だったり努力が必要だったり大変なこともあります、やはりヘルパーがいな

いとそもそも在宅で生活できなくなるので大切な存在です。はじめの頃はどうか付き合っていたらいいのかな悩んでいましたが、年々上手に付き合えているように思います。ヘルパーとの付き合い方から内省が深まり、自分の偏見やこだわりの枠に気づくことも多々ありました。変わらない部分の自分も大事ですが、変わる自分でいたいなと思っています。

テーマを頂き、「自分らしく」生きるとはどんなことだろうかとこれまで考えてきました。たまに自分の言っている事はわがままで、自分勝手な要求をしているのではないかと思うことがあります。ヘルパーにいつも説明をされていて、すっかり説明は上手くなったと自負はしていますが、疲れるなど思う時もあります。受傷後、入院しているときに看護師から退院したらどこに行きたいか聞かれたときに、体が動くなら無人島にいつても誰とも会わずしゃべらず1人で生活したいと答えました。その答えに看護師は驚かれていましたが、退院する私に、大野さんが無人島じゃなくて人に関わってもらえ誰かがいる生活が送れそうなので安心しましたと言われました。やはり今でも無人島に行きたい時はあり、説明をしたくない日もあります。そんな生活の中で、感じることでできる幸せを大切にできることが自分らしく生きることなのかなと思います。ちなみにその看護師はUSJが大好きで、USJの魅力をたっぷり語っていただきUSJに行きたいと言われていました。